

美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開(シ04)

目 的 絵画や彫刻、工芸といった美術作品は、その表現のあり方、制作に用いられた技術、そして利用された素材などが複合し一体となって成立したものである。本プロジェクトでは、こうしたそれぞれの構成要素がどのような実態を持ち、またどのように関わりあっているのか、関連する諸分野を広く渉猟しつつ多視点的に分析し、その関係の解明を目指すものである。こうした研究の実施により、美術「作品」に対するより深い理解の醸成が期待される。

- 成 果**
1. 螺鈿及び漆器類に関わる調査研究等
 - ・4月26日と7月31日、日本民藝館において朝鮮製螺鈿漆器の調査を行った。
 - ・5月8日、川越市立博物館にて三芳野神社縁起絵巻調査及び同館学芸員との意見交換を実施した。
 - ・5月10日～12日に韓国国立中央博物館からの依頼により渡航し、同館所蔵高麗螺鈿香箱の復元に関する助言を行った。
 - ・6月28日に東京大学総合研究資料館小石川分館にて関野貞資料の調査を行った。
 - ・7月2～3日に韓国国立中央博物館保存科学部朴研究員の来日調査について助力した。
 - ・8月2日・23日、個人蔵琉球製箔絵簾盆2枚について、研究協議及び当研究所保存科学研究センターとの共同調査を実施した。また11月1日・3日及び2月26日に沖縄で関連作品調査を行った。
 - ・3月4～5日、南蛮文化館及び堺市博物館ほかにおいて漆器などの調査を実施した。
 - ・旧所員故柳澤孝氏寄贈写真類の整理作業及びそのデータベース化作業を行い今年度末までに約3,200件を終了した。
 2. 研究成果公開
 - ・7月7～8日、日本文化財科学会（奈良女子大学）において、奈良国立博物館ほかとの共同研究成果である「南蛮文化館所蔵南蛮漆器類のX線CT調査」のポスター発表を行った。
 - ・10月2日に開催した第5回文化財情報資料部研究会において、金沢大学の神谷嘉美氏より「平時絵技法で用いられる金属材料の形状について—南蛮漆器作例を中心に—」と題した発表を実施した。
 3. 研究データの整備と公開
 - ・インターネットで公開している『美術研究』データについて、未公開であった英文要旨をpdf公開し、英語による研究情報検索の便宜を促進し拡充を図った。また、英文要旨のない155号以前を対象とした検索用キーワードの抽出作業を開始した。

論 文・高田知仁：「螺鈿と王権—近世近代タイ装飾美術の含意」『美術研究』426 pp.25-74 18.12

報 告・鳥越俊行ほか：「南蛮文化館所蔵南蛮漆器類のX線CT調査」『日本文化財科学会第35回大会研究発表要旨集』18.7

発 表・鳥越俊行ほか：「南蛮文化館所蔵南蛮漆器類のX線CT調査」日本文化財科学会第35回大会 18.7.6

- ・神谷嘉美：「平時絵技法で用いられる金属材料の形状について—南蛮漆器作例を中心に—」第5回文化財情報資料部研究会 18.10.2

研究組織 ○小林公治、山梨絵美子、小林達朗、二神葉子、塩谷純、江村知子、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、野城今日子（以上、文化財情報資料部）、佐野千絵、早川泰弘（以上、保存科学研究センター）、田所泰、中野照男（以上、客員研究員）